

## 第十一章

### 最終的な所見：さらなる調査のためいくつかの提案

このヴォイニッチ手稿の論文を終えるに当たって、私はこの問題の未来への調査のために、いくつかの有利な方向へ導くための方針を提案したい。これらの提案にはこの問題の多くの未知を解決するために、さらなるデータを集める目的も含まれている。そして私たちが今持っているデータをさらに正確に、さらに完全に科学的分析する努力も含まれる。

#### 11.1 古文書学と手稿の科学的研究

私の意見では、まず初めに手稿のインク、羊皮紙を科学的に調査し、古文書学者や美術史家が他のマニュスクリプトと比較することが重要だと思う。そして消えたり薄れたりして判読できない筆記の痕跡を見るために、特殊な光を使って手稿のページを調査すること。私が調べた限りではこのような調査は一度も行われたことはない。さらに手稿の現在の所有者（Yale 大学 Beinecke 図書館）は近い将来にもこのような研究を行う予定はない。それでも、これらの研究からだけでも、我々の多くの質問に十分な答えを与えてくれる望みはある。それらは驚くべき新しい情報を与えて、この問題の状況を一変するかもしれない。私は現在、そして未来の研究者が手稿の物理的研究への興味を起し、研究費を獲得し、必要な調査を実行し、そして他の研究者に結果を知らせることを望んでいる。もしこの論文を読んでいる読者の中に、このような科学的調査がすでに行われたことを知っている人がいたら、私に知らせて欲しい。

#### 11.2 手稿の歴史をさらに明らかにする

私たちが第一、第二章で見てきたように、Wilfrid M. Voynich は多くの有用で興味深い手稿の歴史と以前の所有者について探索することに成功した。彼の歴史的スケッチ (Voynich 1921) の中で、彼は求めるべき多くの有望な筋道を示した。全ての既知または考えられる手稿の所有者については徹底的に調査されなければならない。これらの人々に関係のある通信、図書館、手紙の収集物は新たな試みで探し出さなければならない。そして手稿について触れているどんなものも、解読の試みも、辿らなければならない。ある人々は手稿に関するさらなる記録を発見することを期待して、Villa Mondragone や他の手紙や手稿が一度保管されていた場所を探ろうとするだろう。(例えば Athanasius Kircher のノート、判明していない以前の所有者が Kircher へ送った手紙。) プラハにあるルドルフ朝の文書館からも手稿に関する通信やノートが見つかる望みがある。このような方法で歴史背景を追跡することは私たちに少なくともいくつかの問題を変えるような新しい大切な情報を、または少なくとも私たちの前にある、うんざりさせるくらい多くの未知を減らすことになるだろう。

### 11.3 付随的な調査

いくつかの曖昧な資料同様、ほとんどの目立った資料は全てヴォイニッチの文章や絵との類似関係を調査をしてきたが、よく知られていないものや、閲覧が難しい資料もなお続けて調査を行うだけの価値があると思われる。特に私は錬金術作品が、草本、医学、占星術資料に比べヴォイニッチの研究者からあまり研究されていないので、これら入念な注意をするだけの価値があると思う。そして14世紀～16世紀までの暗号作品への注目はきっと我々の努力に応えてくれるだろう。実際、この論文第八、九章での主題の概略の範囲にあるマニュスクリプトのコレクションや初期の印刷本を決意固く、骨の折れる研究を行うことで、特にヴォイニッチ手稿との類似関係について研究者に新たな証拠を明らかにするだろう。ヴォイニッチ手稿を記した人(たち)、絵を描いた人(たち)が生きている間に他の作品を制作しなかったとは私には考えにくい。どこかで同じ様式を持った絵が見つかり、その正体、作られた場所を解決する可能性、そして誰かの作品の中にヴォイニッチの文字で書かれた文章が見つかる可能性は常にある。

### 11.4 十分な量の機械化された文章

第六章では私たちはいくつかの失敗に終わったコンピュータを用いたヴォイニッチ文章のコーパス(資料の集まり)を研究する試みを見た。手稿中の文章の文字数はおよそ二十五万文字と見積もられ、ほとんどの研究者達はそのうちの5000～25,000文字という小さな長さの範囲で研究しているだけだ。Currierは研究者の中で最も大きな機械化されたサンプルを扱ったと考えられ、そして彼のトランスクリプションアルファベットが機械で扱うには最も現実的選択であるように思われる。(私はCurrierの調査の詳細を読む以前に、すでに私のトランスクリプションアルファベットを用いて19,000文字を磁気テープに移し替えていたが、Currierのものを気に入ったので、それを破棄した。) Petersen神父は手で、手稿の完全なアルファベット順リストを作り上げ、それらは現在Marshall Library in Lexington, VirginiaのFriedman Collectionの中にあるが、ほとんどの研究者にはアクセスが困難である。

私の意見では、Currierトランスクリプションを使った完全な機械化文章が作られ、そしてそれには「筆記」、「言語」、「主題」(草本、薬草、占星等)、その他研究者が統計的に重要だと考えたその他の情報が含まれるのならばそれは非常に価値あるものであろう。このファイルは様々な研究者が、文章に関する仮説を試みたり、さらにCurrierが発見した「筆記」、「言語」同様にその他のものを調査するときに基礎として用いることができるだろう。全ての文章からは特定の目的に合わせて、小さなサンプルを選び作ることができる。

### 11.5 科学的に仮説を作り、試す

文章の性質についての仮説は、既知の現象全てそして全文章の注意深い研究に基づいて

いなくてはならない。(一つのセクションや、あちこちから集めた数ページだけではない。) 仮説は他の研究者によって示された全ての現象を説明することを考慮し、試されなくてはならない。(Tiltman の「初め-中-終わり」構造。Currier の「言語」、「筆記」の発見。「単語」の繰り返しパターン等。)そして最後に、仮説は知られている性質、背景、手稿の歴史と矛盾がなく、そして関係が見られなくてはならない。加えて私は、私たちはたった一つの仮説ではなく、全てのまたはデータの大部分を説明できると考えられるいくつかの理論の選択肢を受け入れるべきであると考え。そのような具体的に納得できる仮説を用意し、私たちは全文章から選択的に作ったサンプルに基づく「実験」を作り上げるべきである。(上で述べたように、一つの形式、トランスクリプションで全てのコンピュータ操作を行えるようにする。)正しい方法によって、私たちはそのようなサンプルで、我々の理論の確認、または否定を試みることができる。もちろんこの調査はラテン語の文章や他の自然言語、様々な人工言語でも同様に行われる必要がある。

cribs や平行碑文、文章を解読するための外部のまたは間接的なデータが存在しない現在、私たちの唯一の成功への望みは、本文や他の我々が持つデータに対する正しくかつ協力した科学的試みである。この方法により、完全に我々を満足させる正しい解読をいつの日か得ることができ、そのときヴォイニッチ手稿のエレガントな謎を正しく評価できるだろう。